

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

ピノキオ幼児舎吉祥寺保育園 きりん組（年長）

【実施期間】

2024 年 5 月～2025 年 3 月

【テーマ】

『お米の成り立ち』

【テーマの設定理由】

近隣のお米屋さんと普段から地域交流を行っていたこともあり、そのお米屋さんより、お米の苗をもらったことにより、子どもたちが興味を持ち、育てたいといった為、子供たちの興味関心をさらに深めるため、テーマを『お米の成り立ち』とした

【活動スケジュール】

[5月末]

- ・お米の苗をもらう

[6月]

- ・お米の苗植え付け（土の種類・配合を調べる）
- ・お世話の仕方を調べる（水やり・水の量）ペットボトルでジョーロ作り
- ・観察日記 作成（観察記録をとる…絵・写真・メジャーなど）

（12月まで継続）

[8月]

- ・お米屋さんの話

[9月]

- ・図書館に行く（さらに深く探求し興味を広げる）

- ・映像でみる

[10 月]

- ・カカン作り（製作）
- ・本物の田んぼの稲を見に行く（神代水生植物園）

[12 月]

- ・収穫→干す→脱穀→もみすり→精米→ お米を炊く→食べる
- ・お米の種類を調べる→米の出来る地域を調べる
- ・しめ縄作り（商店街や街を歩き飾ってあるしめ縄飾りをみる→飾る自然物を探しに行く→ワラの編み方の映像をみる→お正月飾りを作る→飾る（意味を知る）

[2 月]

- ・ワラで「わら半紙づくり」（紙漉き）
- ・草花の上にわらを敷く（霜、寒さ防止）

[3月]

- ・わらの人形作り

- ・収穫後の土の観察→小さな芽の出ていることに気付く（お米の芽？またお米が出来るかな？）

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

- ・色々な種類の土（色、におい、感触、大きさ、重さ、硬さ等）観察

- ・ペットボトル（ジョーロ作り）

- ・画用紙、鉛筆、色鉛筆（観察日記で使用）

- ・図鑑、本、パソコンを使用して調べものをする

- ・タブレット、スマートフォンを使用して、観察記録を撮影する

- ・プロジェクトやスクリーンを使用して、調べたものや、観察したものを全員で共有し、より深く探究する。

- ・製作（かかし作り）カラーポリ袋、油性マジック、ひも、色画用紙、折り紙、割りばし、支柱 等

- ・鍋、卓上コンロ（お米を炊いて食べる）

- ・紙漉きセット（藁を使用してのわら半紙作り）、
- ・ミキサー
- ・のり、はさみ、テープ、マジックペン等の文具、

【探究活動の実践】

[活動内容・活動中の子どもの姿・声、
子どもの姿、保育者との関わり]

2024.06.06 田植え

田植えを行う。

土の名前を答えたり、やり方の予想をしたりと積極的な姿が見られた。



まず…

黒土、赤土、白土、肥料（魔法の粉）を触ってみる。「サラサラしてる。」「しっとり!」「ちょっとかたい。」

「手に粉がつく。」と沢山の発見があった。



根本は
ふわふわだね

そして…

水を加えて、底からかきまぜます。
「重たい…」と言いつつ肩まで入れてまぜまぜ。



最後に…

こわげにした
苗をまっすぐ
植えた。



ななめに
なっちゃった…

つぎに…

6杯（黒土）、3杯（赤土）、
1杯（白土）の土をバケツに
入れた。

「泥がはねる〜💧」と
ゆっくり入れる姿も。



みんなのお米ができるのが楽しみだね!!

2024.08.19 お米の観察



花壇とお米に水やりをして、観察する。植えた順に大きくなっており、「きりんさんの
も大きくなるといいなあ〜」とわくわくする姿も見られた。



一番最初に植えた。

一番最後に植えた。

こあら

そう

きりん



本を持って行き、
見比べてみた。

「これってこの写真
といっしょかな？」



本を見ながら、「この細長いのがお米の
お花だよ」と教えてもらうと、
「細すぎる!」「花びらが無いのに?」
とおどろいていた。

保育室に戻り、改めて本を
読み、「さっきのこれだった
ね!」と再確認。



観察日記では、「今見てきた本物の
の色」で書いてもらった。

気づいたことを書いてもら
うと、「ふとかった」と書く子も
いれば、「ほそかった」と書く子
もいて、見方も子どもの感じ方
で違うことがわかった!
文字を自分で書きたい!と、机
と 50 音表(壁)を行ったり来
たりする姿も見られた。



2024.08.22 08.26 お米屋さんの話、お米観察

8/22 ピノキオの給食のお米を届けてくれるお米屋さんに、お米について色々なお話を聞いた。



「虫も食べにくる?」「お水たりない?」
「ずっとお水やりするの?」と沢山質問した。

茶わん 1 杯のお米は約 1,000~1,500 粒とのこと!
苗 1 本からは 80 粒くらい。「えー! そんなにあるのー?」
「でも 1,000 っていっぱい!」とみんな驚いていた!
これからもみをスズメなどが食べにくるかもしれないから、ネットでおおったり、力カシを立てると良いと聞いたので、どうしていくかまたみんなで考えたいと思う。

8/26 やっと!

きりん組のばけつ稲にももみが実ってきた!
(観察は3つすべてのばけつで行う。)



お米屋さんのお話を思い出して、
「どうなったらもうお水をあげなくていいんだっけ?」と聞いてみると、
「お米がね、こうなったらだよ!」と体を使って教えてくれた!



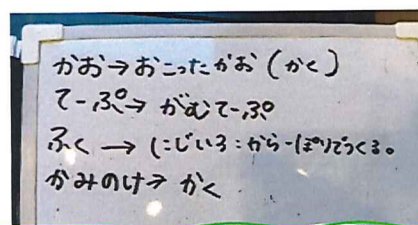
2024.09.30 かかし作り

お米屋さんの話をもとに、パソコンで検索してみたり
調べたりしながらかかし作りを始める



お米屋さんの話をもとにかかし作りを始める。
保育者が「かかしはみんなのお米がある、外に
立てるよ」と伝えると「じゃあ濡れても大丈夫な
のがいいね」と子ども達から意見が出た。
「画用紙は?」「ゴミ袋にする?」「テープは使え
るね」
と、濡れても大丈夫な素材を自分たちで考え
る。実際に園にあった廃材も提供し、参考にし
た。

↑ 掲示していたかかしの写真を
他児に共有し参考にする姿。



顔や材料などの話し合いをホワイトボード(右
図参照)を利用して保育者がまとめた。



梱包材、アルミホイル、カラーポリなどを使用
することに。色は子ども達から「レインボ
ーにしたい」とリクエストが。カラーポリを
机に出し、数を数えると一色足りなかつ
た。子ども達に何色が足りないかを尋ねる
と、机上とカラーポリが入っている箱を見
比べて「みどり!」と気づいていた。

← 完成し、実際に立ててみる。

「おお〜」

「かっこいいかかしができたね」

「大変だった」

と、歓声や感想を口にしていた。

服が出来上がると、アルミホイルでボタンを作ったり、靴を作ったりと
さらに工夫をする姿が見られた。

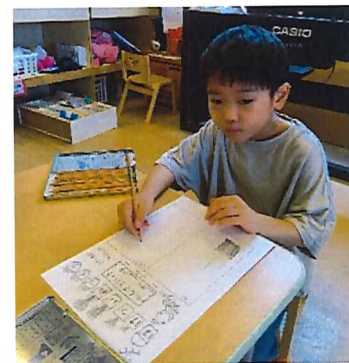
はじめは保育者が OPP テープを切って渡していたが、少しずつ伝えて
いくと、子ども達で協力してテープを切ることが出来ていた。



服に集中するうちに、先に顔
をマジックで書きだしてしまう
子がいた。するとどんな顔にす
るかの話し合いが始まった。
「怖くしよう」「怖い方がすずめ
も食べに来ないんじゃない?」
「目を赤くすると怖いよ」「ひげ
ははやす?」と、自分たちの考
える【怖い顔】を伝えあって製
作を進めていた。

お米の観察 2024.10.1

穂が垂れていることや色が変わっていること
緑のお米は触るとベトベトとしているけれど
黄色のお米はベトベトしていないことに気づいた。
また、緑のお米は穂が垂れておらず
黄色のお米は穂が垂れていることに気づけた子も!!
根っこの先から実の一つ一つまで観察をしていた。



お米の観察日記を書いた。
自分たちで書きたい文章を考えて
ひらがな表を見ながら丁寧に書いていた。
皆がみえる所に掲示し、自分たちだけではなく
保護者や他のクラスの子たちにも見てもらえる
ようにした。

2024.10.01 かかしの製作

前日に折り紙でかかしを折ったきりん組。

上手に折れていたのでも今日は画用紙を使って
大きなかかし作りに挑戦した。

昨日初めて折ったのに折り方を覚えており
説明を聞かなくても折れる子もいた。



かかしにつける棒も
子ども達が広告を丸
めて作った。



画用紙は固くて折るのが
大変だったが丁寧に力を
込めて折っていた。



2024.10.15 お米の観察

お米の観察に行った！

観察の回数を重ねていることもあって、
お米の変化に気づく子が増えた。

「かかしにありんこ来てる」



「茶色が増えたね。」

「バケツの水がもうない！」

「お米やさんがもうあげなくていいって言
ってたよね。」今日も沢山の発見があった。



「このお米、早く食べたいな〜。」

「なんか、カピカピしてきたね。」

「ここはまだべとべとするよ。」



「どれくらいの高さだろう？」という話になると、
「〇〇の鼻の高さくらい！」「△△の目くらい！」など、
自分と比較する姿がみられた。

「やっぱりこあらさんのがいちばん大きいよ。」と発見する
子もいた。

（こあら組が一番早い日程で田植えをした。）



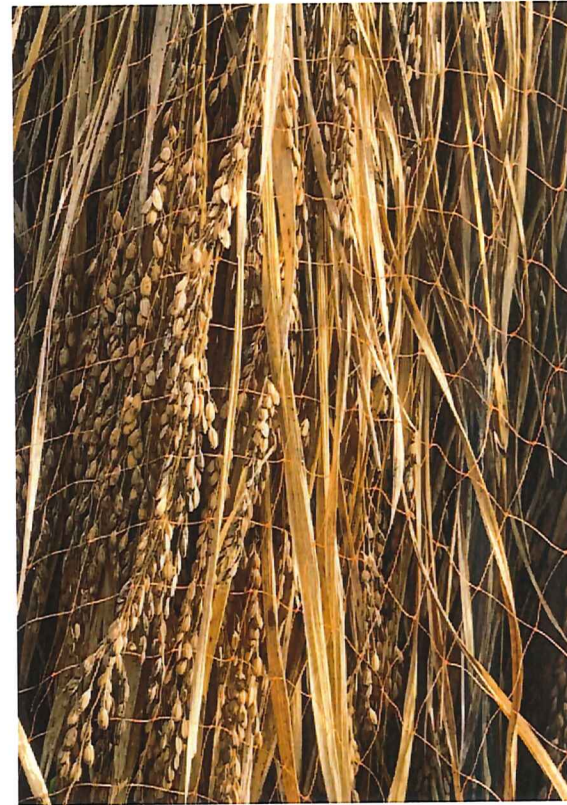
観察日記もこれ
を書きたいとい
う思いがそれぞ
れあり、着手が早
くなった。

「“ぴ”ってどう
やって書くの？」
など文字への興
味関心も深まっ
てきた。



今日の記録からは
カカシが登場する
子が多かった。

2024.10.31 神代水生植物園（はざかけ見学）



←

「お米がいっぱいついてる」と言
ってよく観察する姿。

「すごいね」

「ぜんぶ茶色」「かさかさしてる」

「おおきいね」



←

「なんでこのオレンジの網がある
の?」「鳥とかに食べられないよう
にするためだよ」「ああ、かかしと
いっしょか」 お米屋さんに聞い
た話を覚えていて、子ども達同士
で疑問を解決していた。

2024.12.03 お米の脱穀



はざかけしていた稲の脱穀をしました。そーっとヒモから外し、「(お米が) いっぱいついてる!」「あんまりない…。」「かさかさ!」と色々な感想があった。



保育室に戻り、お米の育ちを動画で改めて確認!

田んぼ(動画)とバケツ稲でのちがいはあるものの、知っている内容(田植え、はざかけなど)が出てきており、保育者が伝えると「ほんとだ!」と嬉しそうにしていた。

「はくはわりはしにしておく」
わりばしはつながったままの状態を使うのですが、割ってしまっ
た子も多く、力加減の学びにもなった。



「こうするととれるの…!」

「あれ、これも空っぽじゃん!」

「きれいに取れた!」



脱穀

わりばしや牛乳パックを使って脱穀をした。どちらも力とコツがいりますが、すぐにつかんでスムーズに作業する子もいれば、「手のほうがはやい!」とプチプチつみとる子もいた!

「まだあるはず…」と稲をよくチェックしたり、「ほかの稲ある?」と追加したりと積極的な姿が見られた。



「どれぐらい?」「100 までいく?」と興味深々。



何粒あるかな?

みんなで脱穀したお米。重さは約 25g。トレーや画用紙の上で“10 粒ずつ”に分けて数えた。

「中身のないやつは外そう。」「こっちは空っぽなので、こっちはかたいやつ。」と自分たち工夫しながら作業していた。

総数は 351 粒!!

「すごーい!」と大喜び!

お茶わん一杯は 2,100 粒と調理さんに聞き、「えっ!?!」と驚いていた。



10 のかたまり作り。

トレーに仕分けたり、1 列に並べたり。

2024.12.04 もみすり、精米

昨日脱穀したお米のもみすりと精米をして、試食（安全性のため差し替え）をした。

まずはすり鉢を野球ボールを使ってもみすり。力が強すぎてしまってお米が割れてしまうコマも、加減を工夫してもみ殻を取った。

ペットボトルに玄米を入れてひたすらシェイク！お米を傷つけずにぬかを取り除く作業。

長い針〇になるまでやるんだー！



りざーどんちーむ



きょだいてらすたるちーむ



にゃんこちーむ



ふーっ！



今回から、記録の写真を子ども達にも撮影してもらった。

「こうすると写るんじゃない？」
「持っておくよ」と協力しながら撮影してくれた。



おいしーい♡



すり鉢にふーっと息を吹きかけると、とれたもみ殻だけが吹き飛び、中にはお米（玄米）だけが残ри、「おおお…」と感嘆の声が漏れていた。

（差し替えの）お米をお鍋で炊飯するところを見学。「ぐつぐつしてる」「毒みたい」「おいしいにおいがする」とさまざまな感想が出てきた。

給食時に一口ずつ試食。（差し替えたお米です。）「ふかふかしてる。」「いつもよりふんわりしてる気がする」と嬉しそうに教えてくれた。

2024.12.23～しめ縄づくり

脱穀後の稲が「もったいないね」という話になり、しめ縄づくりを行った。

作り方を保育者が伝えるとともに、いつでも動画で確認できるようにして視覚的援助を行いながら活動した。



足の指の力があることや、稲をねじってよっていく作業に「力があるね」「難しい」「体が痛くなってきた」「いいにおいがするね」と様々な感想を言葉にして取り組む姿が見られた。

実物を使って見本を見せることと、動画を利用して流れを見ることで、イメージがつながっている様子だった。

子ども達の感想から、作っていく難しさや面白さだけでなく、手や足から感じる感触や、においなど様々な感覚の刺激を受けて楽しんでいることがわかった。

田植えから継続していることによって、食べ物は食べるだけでなく様々な形に変化して生活の中にいきていることがわかった。

戸外活動で拾ってきた松ぼっくりなどの自然物をしめ縄に飾ることで、より身近で愛着を持った様子だった。



2025.02.21 わら半紙づくり



年末に年賀状を製作した際、牛乳パックを利用して紙漉き体験を行った。
そのことをよく覚えており、「色が濃いね」「臭いにおいがする」など色の
違いや匂いの違いを比較して話す姿があった。



スマートフォンを使用して記録撮影も行った。「ここの丸を押したら写真
がとれるんだよね」「この角度がいいな」「今がシャッターチャンスだ」と
自分なりに工夫し、楽しみながら記録する姿が多かった。

一度体験した内容ということで慣れた様子も見られたが、材料が違ふことで新たな気付きや比較を楽しんでいる様子だった。

2025.03.24 わらの人形作り



「可愛くしたいね」「うさぎのかたちに、可愛くしたいね」

「うさぎのかたちになってきた」



「目は赤だよ」「名前をつけよう」と話し合いながら活動する姿が見られた。

わらの活用に興味が広がったので、園にあった本をもとにわらで人形を作った。

活動が継続し、広がっていることから、興味が持続する子もいれば、飽きてしまう子もいたり反応は様々だった。

タブレット端末で【わらアート】の動画を見ることで、動画を作ることに興味が深まった様子だった。

動画を見て「こんな大きなやつも作ってみたいね」と意欲を見せる子もいた。



端末は子ども達にも身近なツールであるが、画面との距離や活動への取り入れ方に配慮が必要であると感じた。

【振り返り】

〔振り返りによって得た先生の気づき〕

土づくりから始め、水やりする中で、定期的に観察を行い、観察日記で記録を行う。途中、水を切らし枯れきたことで、なんでだろう？どうしたらよいか？と、子どもたちの中で考え、水を沢山あげたときは葉の伸びがいいなどの変化にも子どもたち自身の気づきがあった。保育者が答えをすぐに言うのではなく、子どもたちが自分たちで体験し、枯れるという失敗したことから、さらに考え、成功に繋がられる案を導き出せたことは良かった。その後もタブレットやスマートフォンを導入することで、自分たちで写真を撮り、それをスクリーンに映して拡大し、細かい生育を見ることが出来たことにより、さらに細かくい観察をする事が出来た。そして、それを観察日記で、継続的に掲示しながらの記録することで、子どもたち自身の振り返りや、次への活動の発展に繋がれたことは良かった。また、図鑑や本で調べものをしていたが、パソコンを用意したことで、検索したり、映像を見たりすると、興味が広がり探究心が強まった。その中で、お米を鳥に食べられないように守る為には、「かかし」が必要という事を知り、かかし作りが始まる。子どもたち同士で話し合いが始まり、雨でぬれても大丈夫のように発泡スチロールやビニール素材で作りたいと子どもたちから要求が出てきた。子供たちが自由に素材を選んだり、自分の興味に基づいて自由に活動できる環境を整え、子供の主体性をもとに活動を

展開出来るように心掛けた。また作っていく過程で、子どもたち同士で役割分担を決める様子もあった。保育者は、活動中の子供たちの反応や興味関心に対して、見落とさずキャッチし、子どもの言葉やアイデアを取り入れながら、環境構成や活動内容を適宜工夫し、見守るようにした。子どもたち同士で考え話をまとめ、協働的な姿も見られ、さらに探究を深めることが出来たことは良かった。

また米の収穫→干す→脱穀→もみすり→精米→お米を炊く→食べるという過程を経験することで、作ってくれる人への感謝の気持ちや、食への興味なども生まれ、ピノキオの給食～3つのお約束～（1、楽しく食べましょう 2、感謝しておいしくいただきましょう 3、からだ元気になりましょう）に繋がってきたことは良かった。

また、米だけでなく、米を収穫して残ったわらでも、何かできないかという案がでてきた。お正月飾りのしめ縄飾りをわらをより作る経験をする、散歩で拾ってきた松ぼっくりやドングリ、赤い実などを工夫してしめ縄につける姿があった。また、紙漉きでわら半紙を作ったり、わらの人形を作ったり、花壇に敷いて霜や寒さをしのぐことが出来ることを知り、体験することで、子ども達からの様々な探究心がお米の成り立ちだけに留まらず、テーマがさらに広がってきたことは、とても良かった。

1年間かけて行った活動を振り返り、探究活動が子どもたちひとりひとりの主体性や、さらに年長児としての協働性を養うことが出来る事に気づくことが出来た。

今後、年長児が卒園しても、この活動や年長児の様子をみていた下の学年の子どもたちが、さらに主体性をもって探究したくなる環境作りを設定し、つながる保育が出来るようにしていきたいと思う。また、担当になったクラス保育者だけでなく、記録を見ながら、全体職員会議にて全職員で振り返りを行ったり、記録をもとに、子供たち一人ひとりが何に関心を持ち、どのようなアイデアを持ってどんな活動を展開して行ったか等も共有した。今後も同様、全職員で共有し、園全体で取り組んでいけるようにしていきたい。

また、保護者にも、これらの活動内容や子どもの様子を、掲示や迎えの時、保護者会等で伝えたが、今後も、保護者に、よりわかるように見える化し、保護者の意識も高め、巻き込みながら、さらに子どもたちの探究心を強め広げていけるようにしたい。